


2010年3月期 第2四半期決算説明会

2009年11月2日

 **TOYOTA** 株式会社 豊田自動織機

I. 決算サマリー

2010年3月期 第2四半期連結累計期間実績

(億円)

	09/3期2Q 累計	(5/12時点予想) 10/3期2Q 累計	増減	増減率
売上高	9,284	(6,200) 6,275	▲3,009	▲32.4%
営業利益	229	(▲150) ▲28	▲257	-
経常利益	403	(▲125) 42	▲361	▲89.4%
純利益	235	(▲95) 2	▲233	▲99.0%

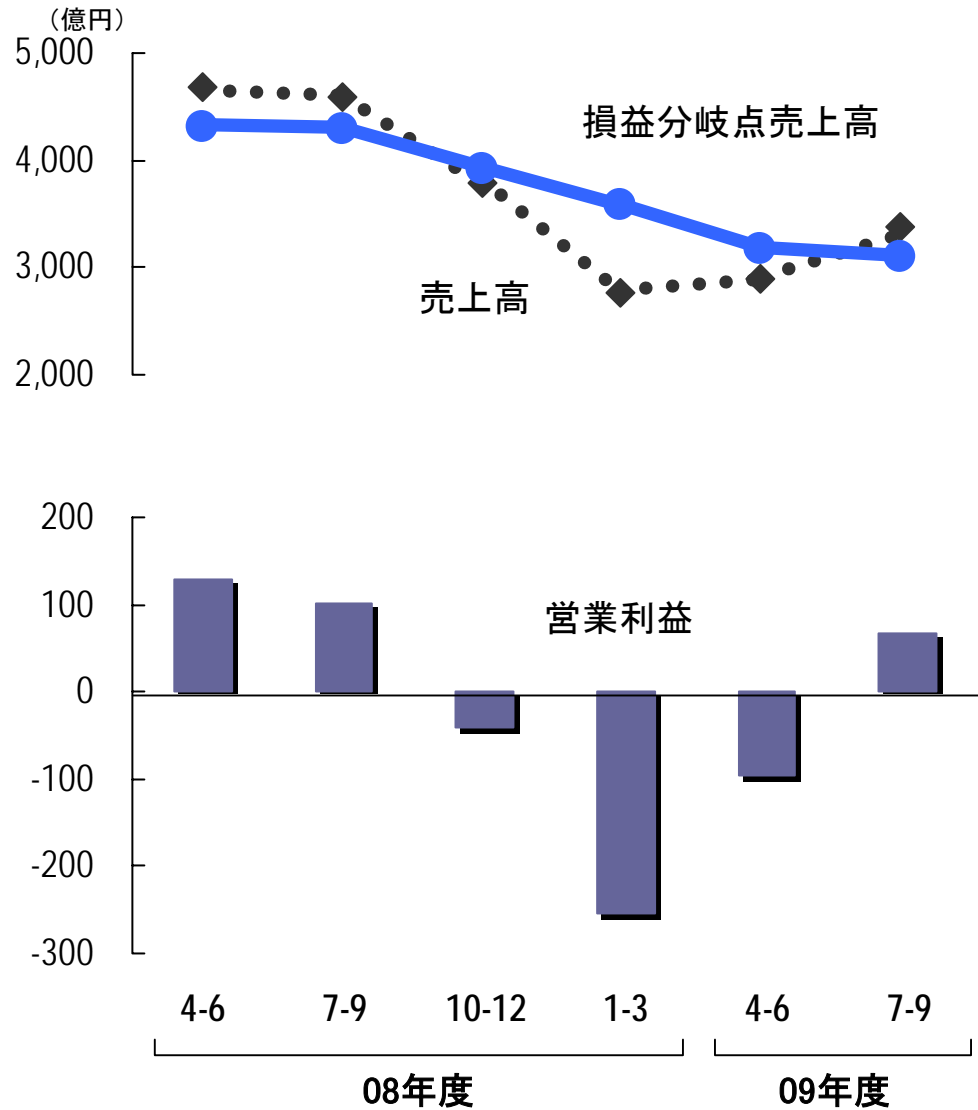
2010年3月期 決算予想

(億円)

	09/3期	(5/12時点) 10/3期予想	増減	増減率
売上高	15,842	(13,000) 13,900	▲1,942	▲12.3%
営業利益	▲66	(▲100) 100	+166	-
経常利益	143	(▲115) 180	+37	25.5%
純利益	▲327	(▲100) 45	+372	-

Ⅱ. 構えのスリム化の進捗

構えのスリム化による損益分岐点の改善



■緊急収益改善委員会で徹底・フォロー

1. 人件費
2. 設備投資
3. 経費

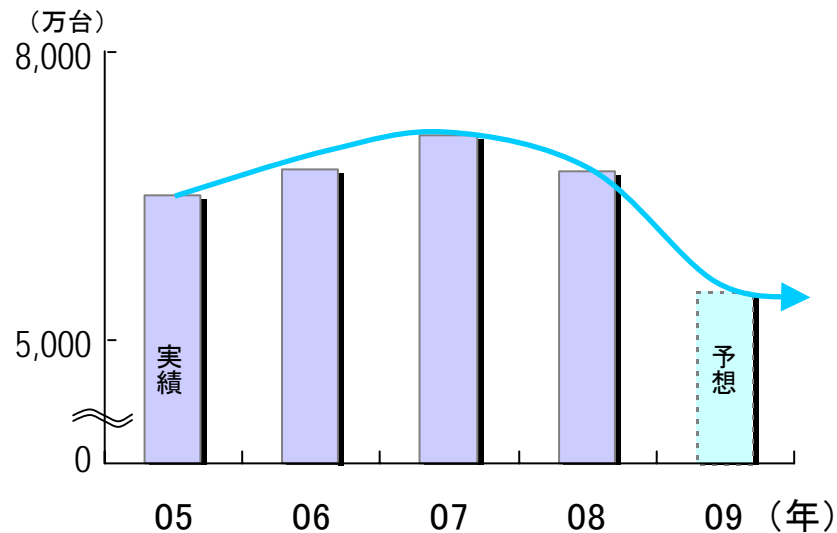
- 役員自らが痛みを感じて率先
- 国内外の連結を含め一丸となって取り組み

➡ 全員の意識が変化

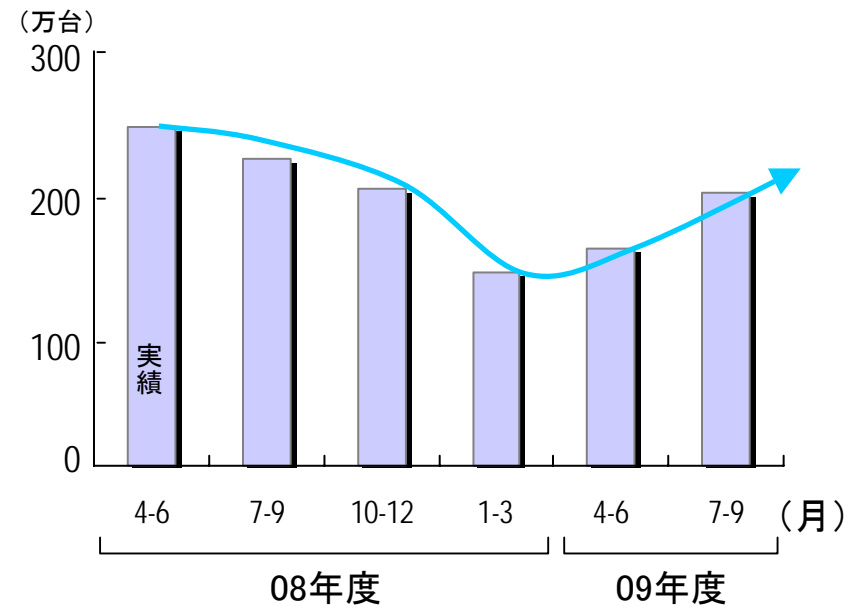
構えのスリム化による
損益分岐点の引き下げ
および売上増加により
2Qで黒字化

Ⅲ. 自動車事業の取り組み

■世界の自動車市場



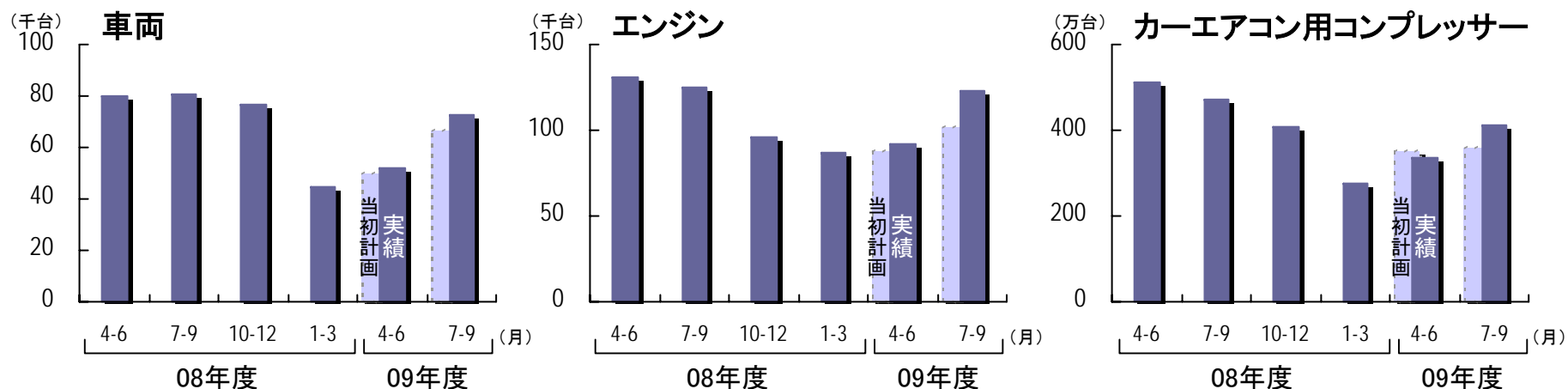
■トヨタの生産台数



1. 08年9月のリーマン・ショック以降、市場は急落
2. トヨタの生産台数も、09年1～3月まで減少
3. 09年度に入り、在庫調整の一巡および各国のスクラップ・インセンティブ等の市場活性化策効果により、市場・トヨタとも回復基調
4. 今後は、市場活性化策の反動等の懸念もあり不透明

当社の生産台数と対応

自動車事業



1. 車両・エンジン・コンプレッサーとも09年1～3月を底に増加に転じる
2. 当初計画に対しても4～9月は上振れ

小さくした構えを維持し、下期の生産増加に対応

1. 生産要員は社内・連結グループ内で調整
 - 1) 間接部門から直接部門への異動(技能職)
 - 2) 事業部間、子会社・仕入先間での調整 など
2. 設備は稼働率アップで対応
 - 1) 生産ラインタクトタイムのスピードアップ
 - 2) 一部生産ラインの2直化再開 など

今後の事業展開

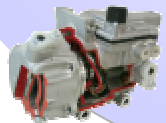
3E (Environment, Ecology & Energy) をキーワードに
当社の総合力を結集

省エネ技術

- 次期型可変コンプレッサー
- 低燃費ディーゼルエンジン

電動化技術

- 電動コンプレッサーのシリーズ化
- 電動化ユニット・システム
- HV、PHV、EV
- 電動式フォークリフトのキーコンポーネント
- フォークリフト用ハイブリッドシステム



ES14電動コンプレッサー



PCU直冷式冷却器



電動式フォークリフト



充電スタンド

3E

[プロジェクト型の企画・開発]

自動車・
産業車両へ展開

軽量化技術

- 樹脂ウィンドウ
- 炭素繊維強化樹脂 (CFRP)
- 車両・部品・機器の小型・軽量化

東京モーターショーに出展

For
Sustainable
Motorization

私たち豊田自動織機の想い。
持続可能なクルマ社会へ。



PCU直冷式冷却器



車載充電器

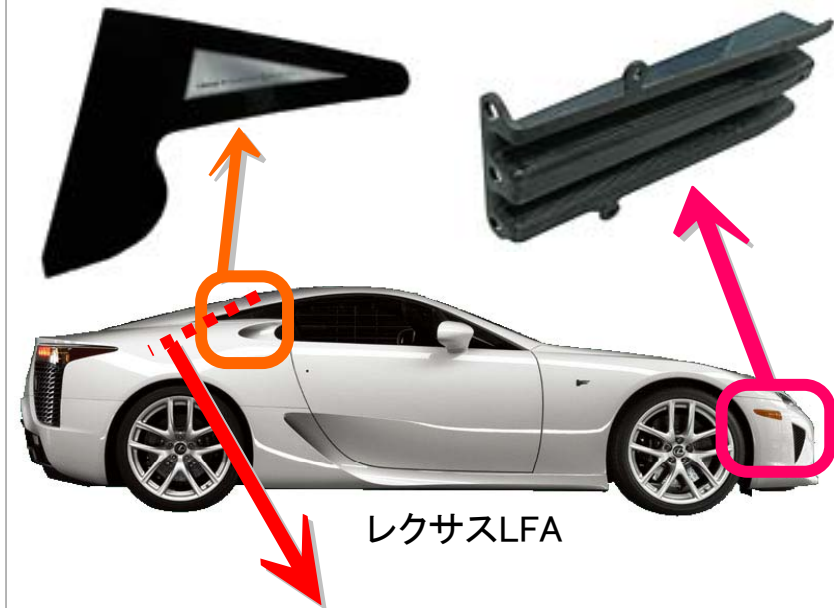


充電スタンド



＜樹脂ウインドウ＞
クォーターウインドウ

＜3次元炭素繊維強化樹脂＞
クラッシュボックス *



レクサスLFA

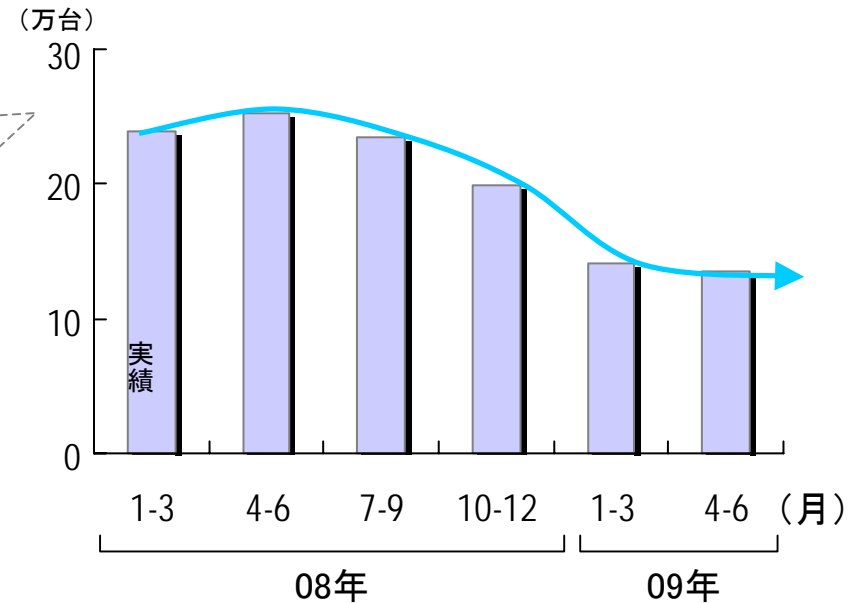
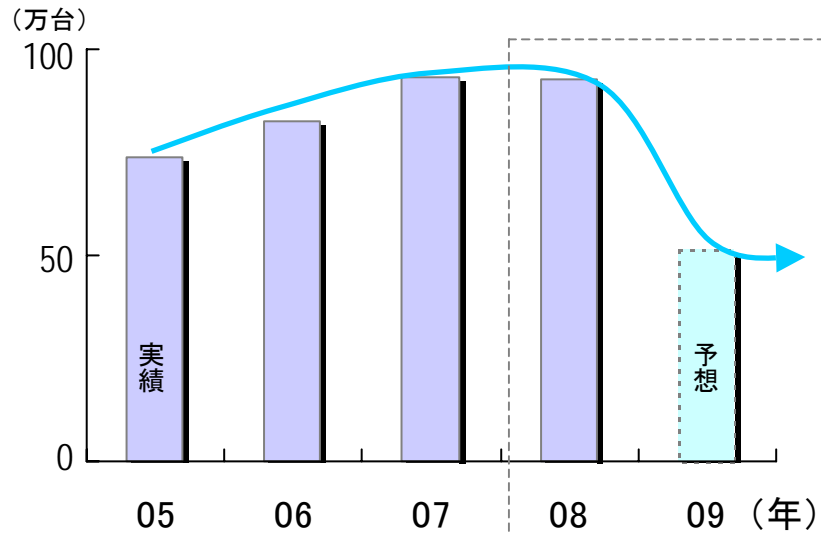


＜樹脂ウインドウ＞
パーテーション

*クラッシュボックスは、当社の3次元炭素繊維強化樹脂の
技術を採用し、トヨタ自動車(株)が製品化したものです。

IV. 産業車両事業の取り組み

■世界のフォークリフト市場

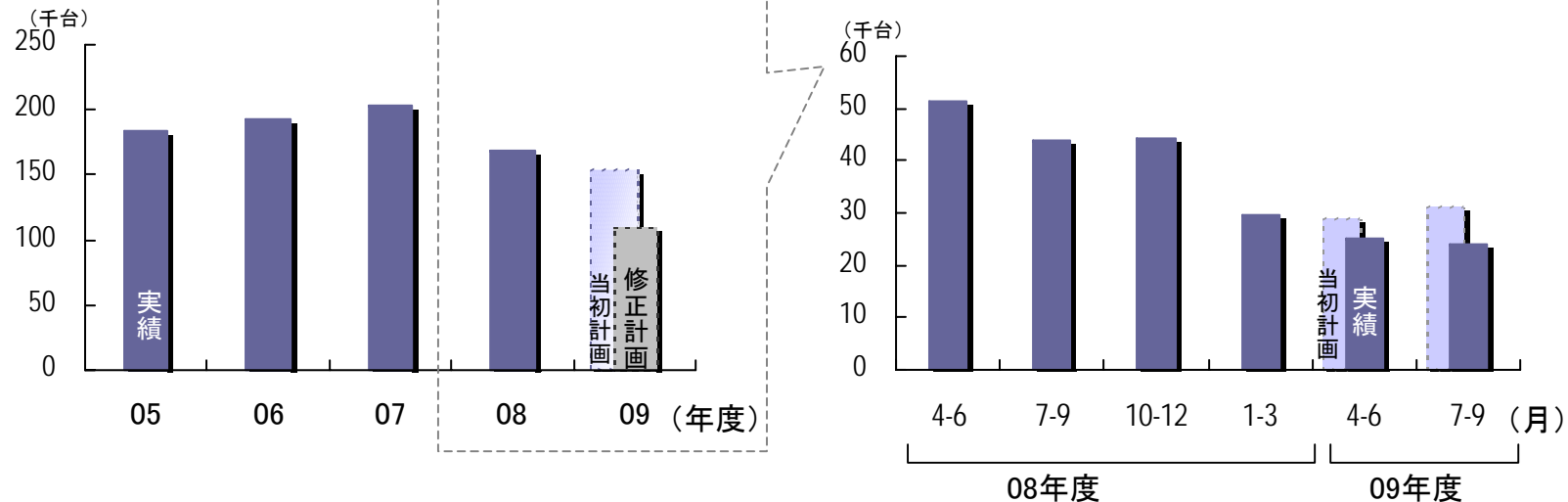


1. 世界のフォークリフト市場は、08年の年央から四半期ごとに縮小
2. 09年に入ってから、依然として底這いの状況
(自動車よりも回復が遅れている)
3. 09年の市場規模は、07年に対して約半減の見込み

当社の販売台数と対応

産業車両事業

フォークリフト販売台数



1. 当初は、世界市場の縮小に伴い、販売台数の計画をピーク時の約7割で設定
2. 市場の回復遅れにより、今回、ピーク時の約5割まで計画を引き下げ

さらに構えを縮小

将来の飛躍に向けて基盤を強化

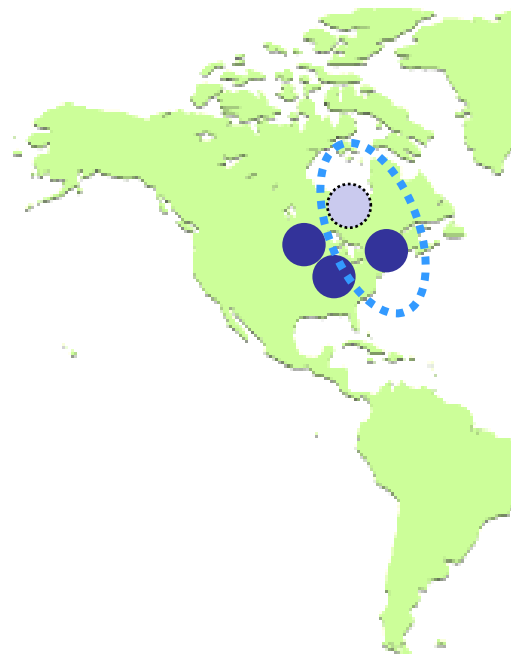
1. 生産拠点を再編

- 北米Brantford工場(カナダ)の閉鎖

電動式リーチタイプフォークリフトの生産を Greene工場(米国)へ移管

工場閉鎖: 2010年3月

【移管機種】



2. グローバルでの人員の適正化

1. 環境技術による商品の差別化

1) 電動車の商品力強化

- 全社リソース投入による「3E」の技術の展開

2) HVフォークリフトの市場投入

中・小型は電動車
中型以上はHV車



ディーゼルエンジン式ハイブリッドフォークリフト
GENEO-HYBRID (09/12月発売予定)



大型電動式フォークリフト (5.5トン~8.5トン)
GENEO-B HTC (09/9月発売)

2. コンペチターを凌駕する世界戦略車の開発

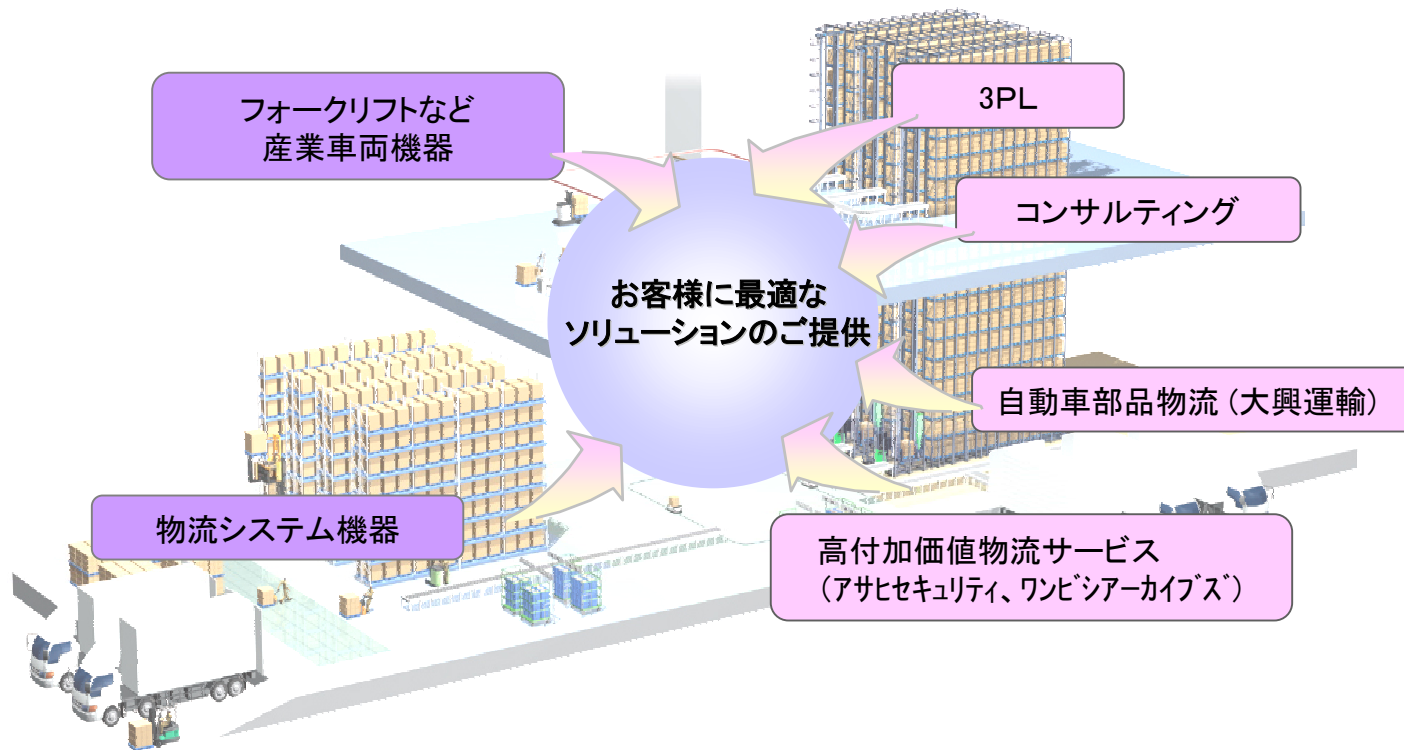
1) 画期的なコストダウン

2) 新興国市場(BIC)の攻略

- トヨタ・BT両ブランドのフルラインナップによるお客様ニーズへの対応

3. 物流ソリューションビジネスの強化

- 1) 産業車両や物流システムの機器および物流に関するノウハウを結集した、お客様への最適なソリューションの提供



1) 海上コンテナ搬送システム

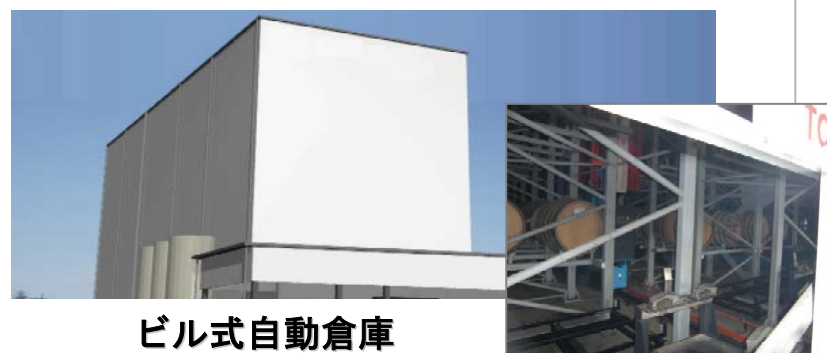
- 国際競争力の確保のため荷役時間を短縮



海上コンテナAGV

2) 焼酎熟成保管システム

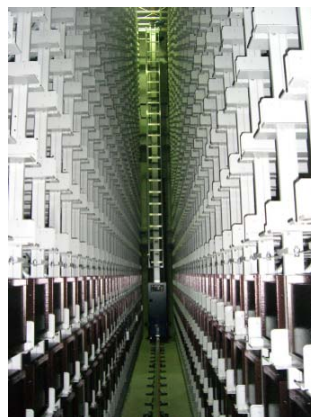
- ビル式自動倉庫の導入により、熟成樽の大量保管と作業者の負荷軽減・安全確保に貢献



ビル式自動倉庫

3) 納骨堂システム

- 墓地開発が困難な都市部で、自動倉庫を活用して納骨堂をマンション化



参拝堂

V. 決算詳細

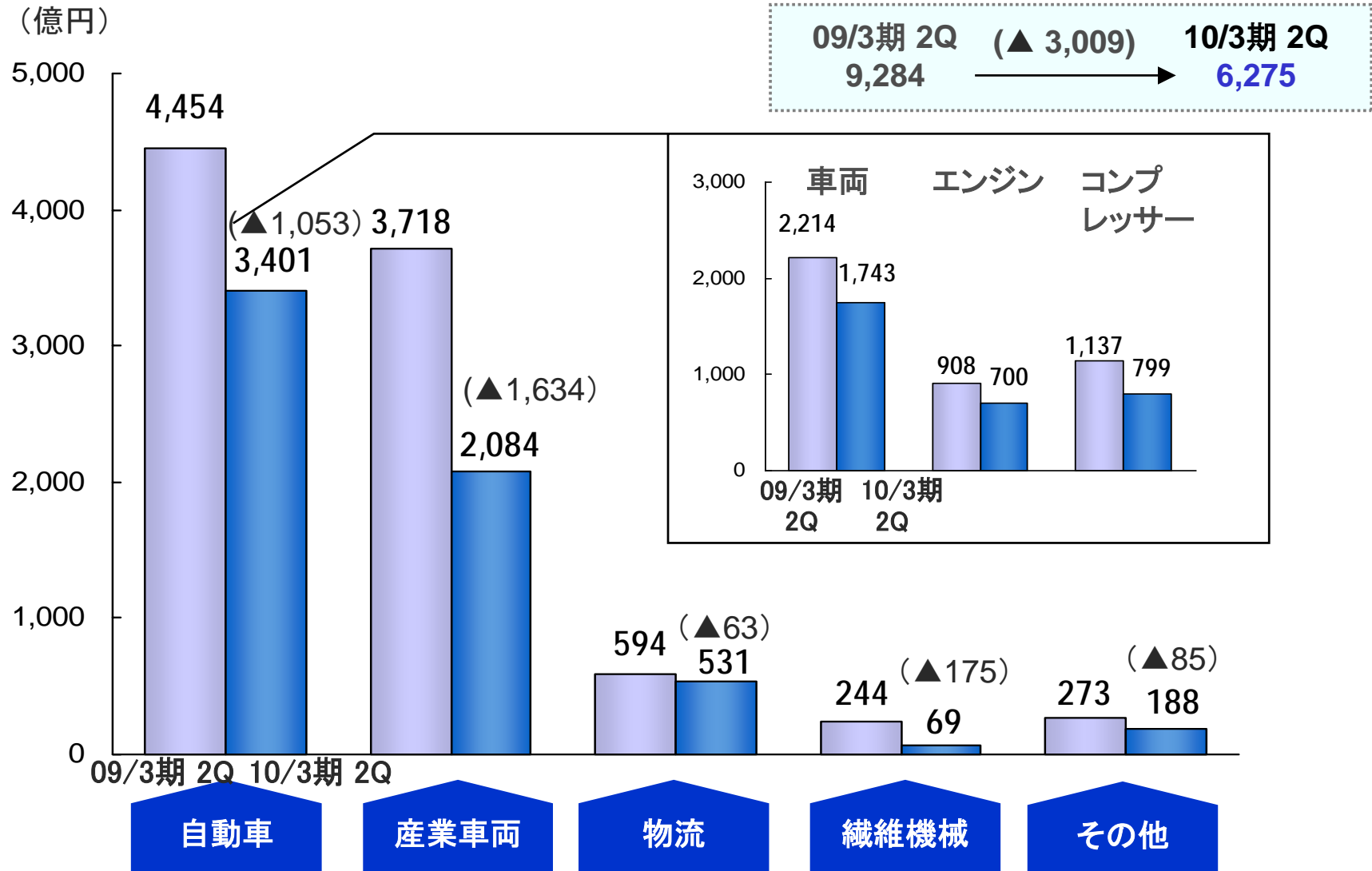
2010年3月期 第2四半期連結累計期間実績

(億円)

	09/3期2Q 累計	(5/12時点予想) 10/3期2Q 累計	増減	増減率
売上高	9,284	(6,200) 6,275	▲3,009	▲32.4%
営業利益	229	(▲150) ▲28	▲257	-
経常利益	403	(▲125) 42	▲361	▲89.4%
純利益	235	(▲95) 2	▲233	▲99.0%

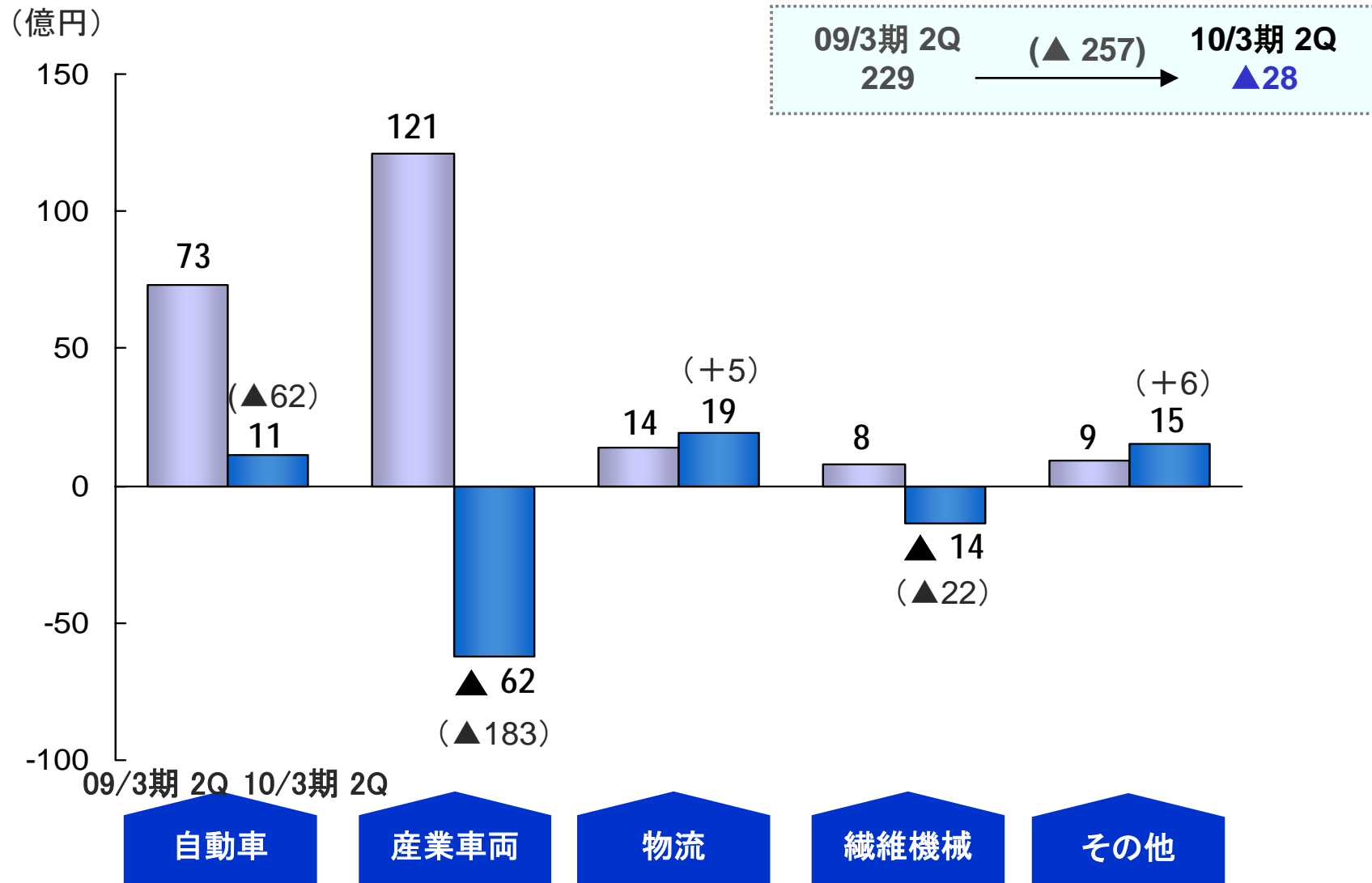
事業別セグメント売上高

2010年3月期 第2四半期連結累計期間実績



事業別セグメント営業利益

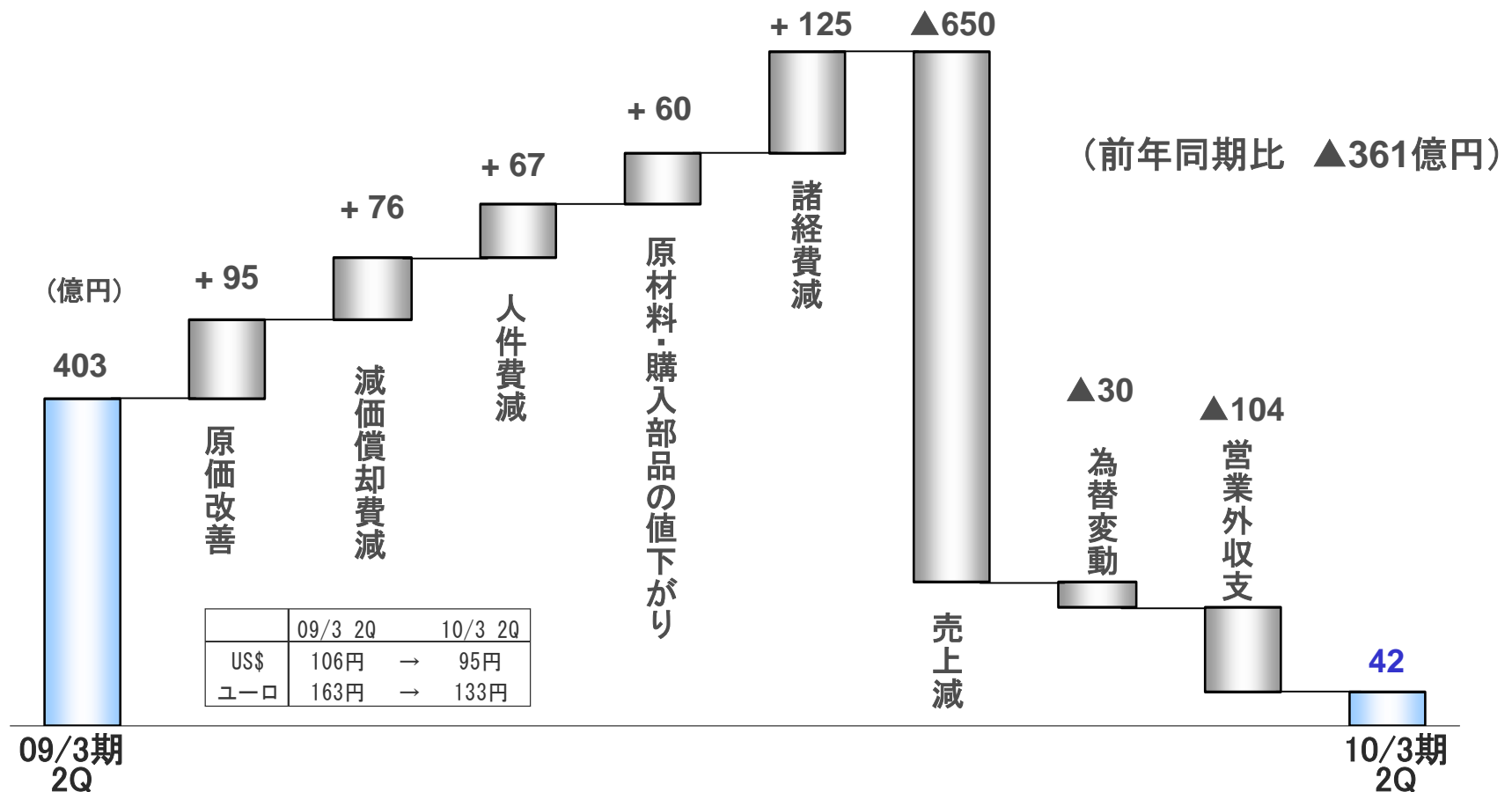
2010年3月期 第2四半期連結累計期間実績



経常利益の増減要因

2010年3月期 第2四半期連結累計期間実績

(09/3期2Qと10/3期2Qの比較)



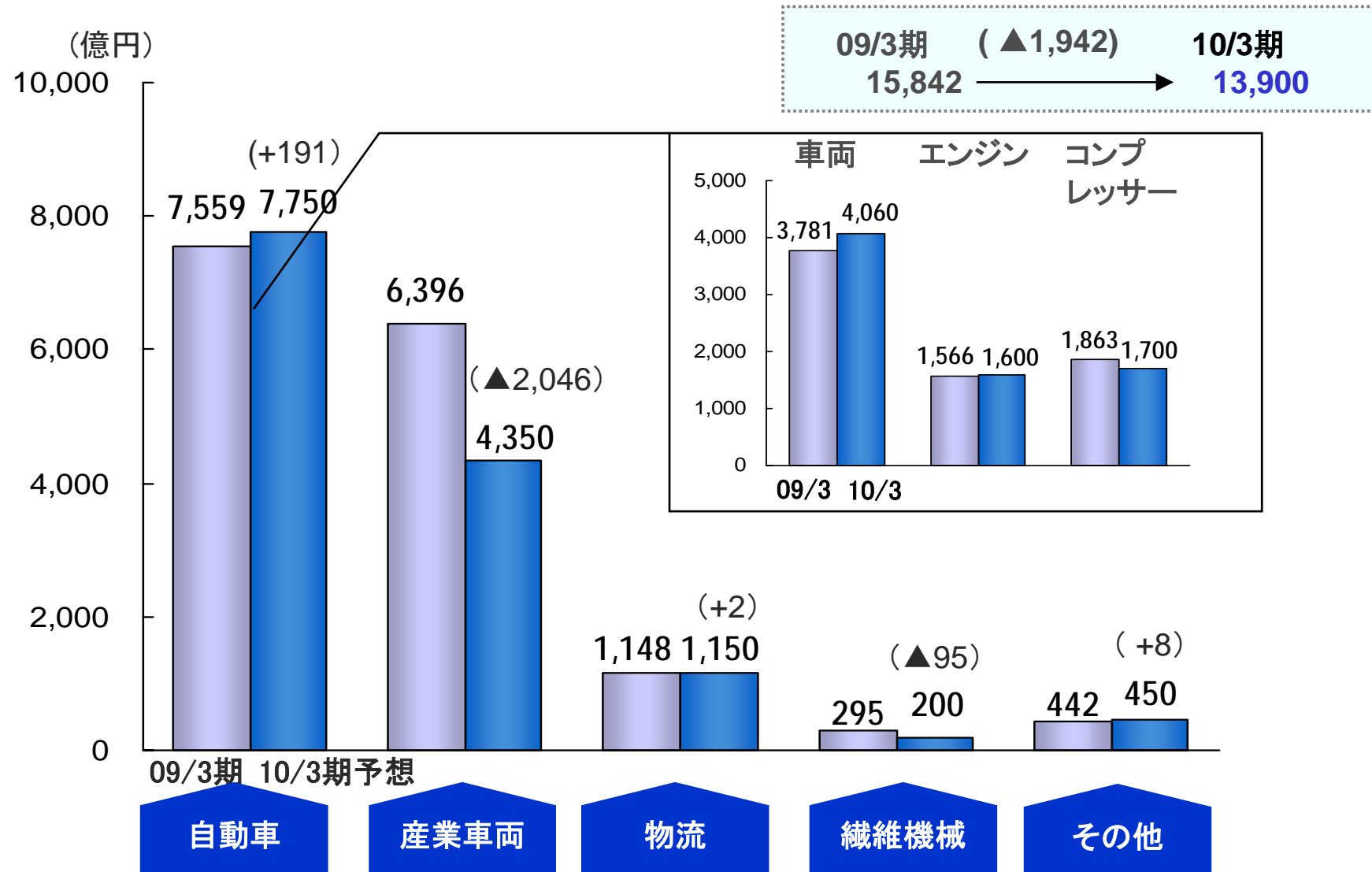
2010年3月期 決算予想

(億円)

	09/3期	(5/12時点) 10/3期予想	増減	増減率
売上高	15,842	(13,000) 13,900	▲1,942	▲12.3%
営業利益	▲66	(▲100) 100	+166	-
経常利益	143	(▲115) 180	+37	25.5%
純利益	▲327	(▲100) 45	+372	-

事業別セグメント売上高

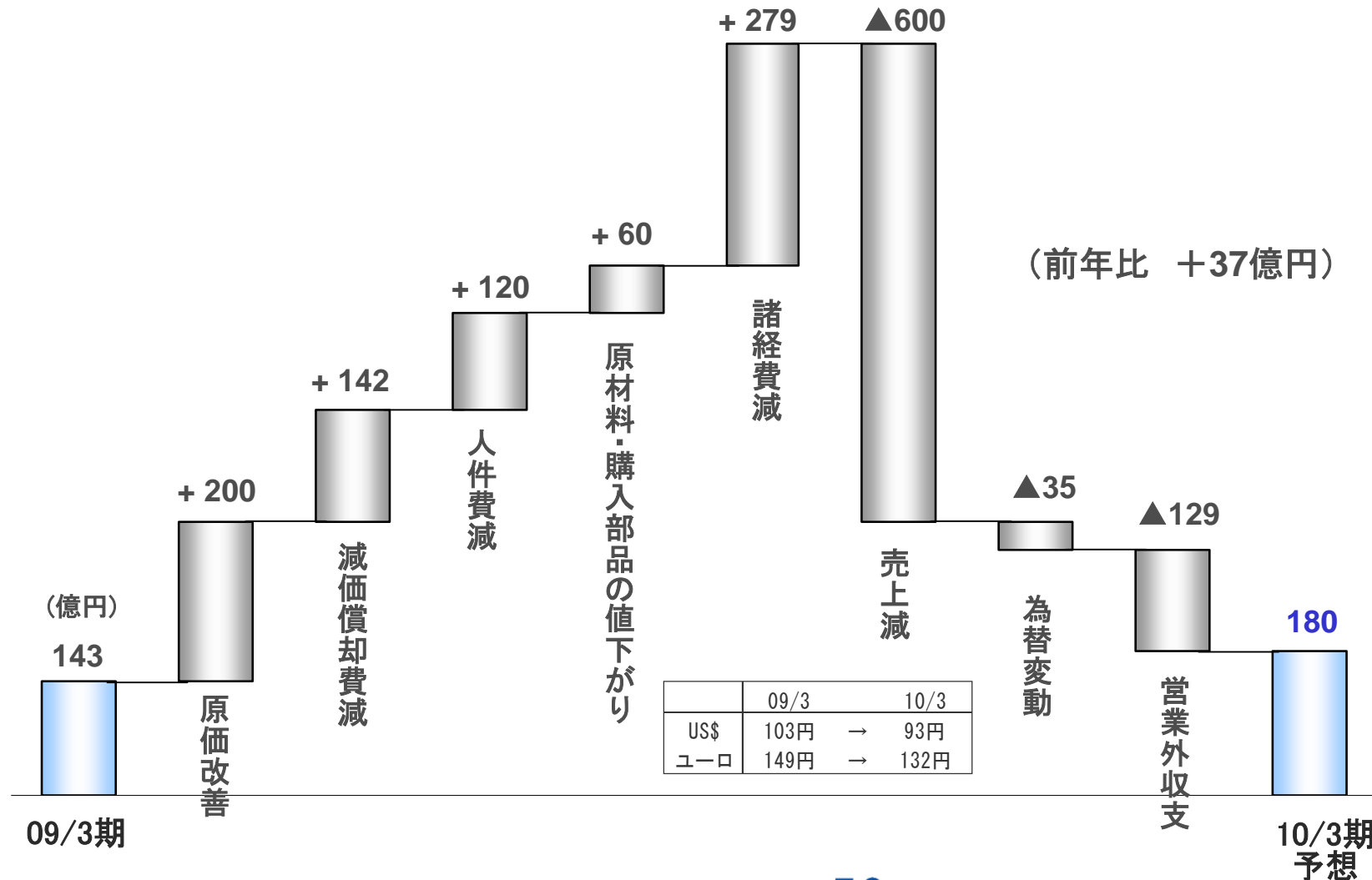
2010年3月期 通期予想



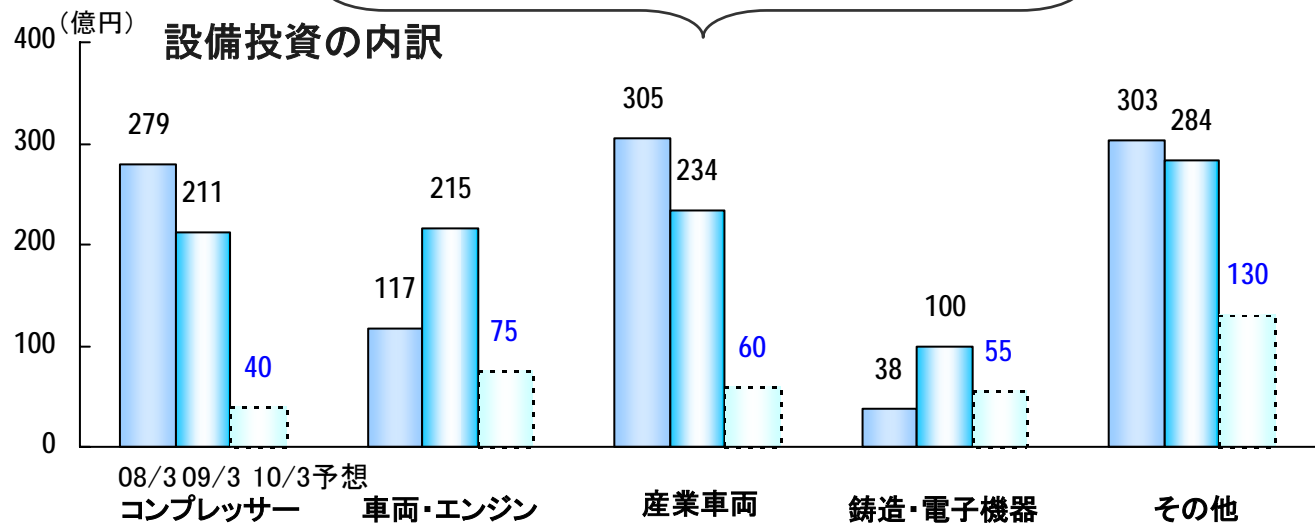
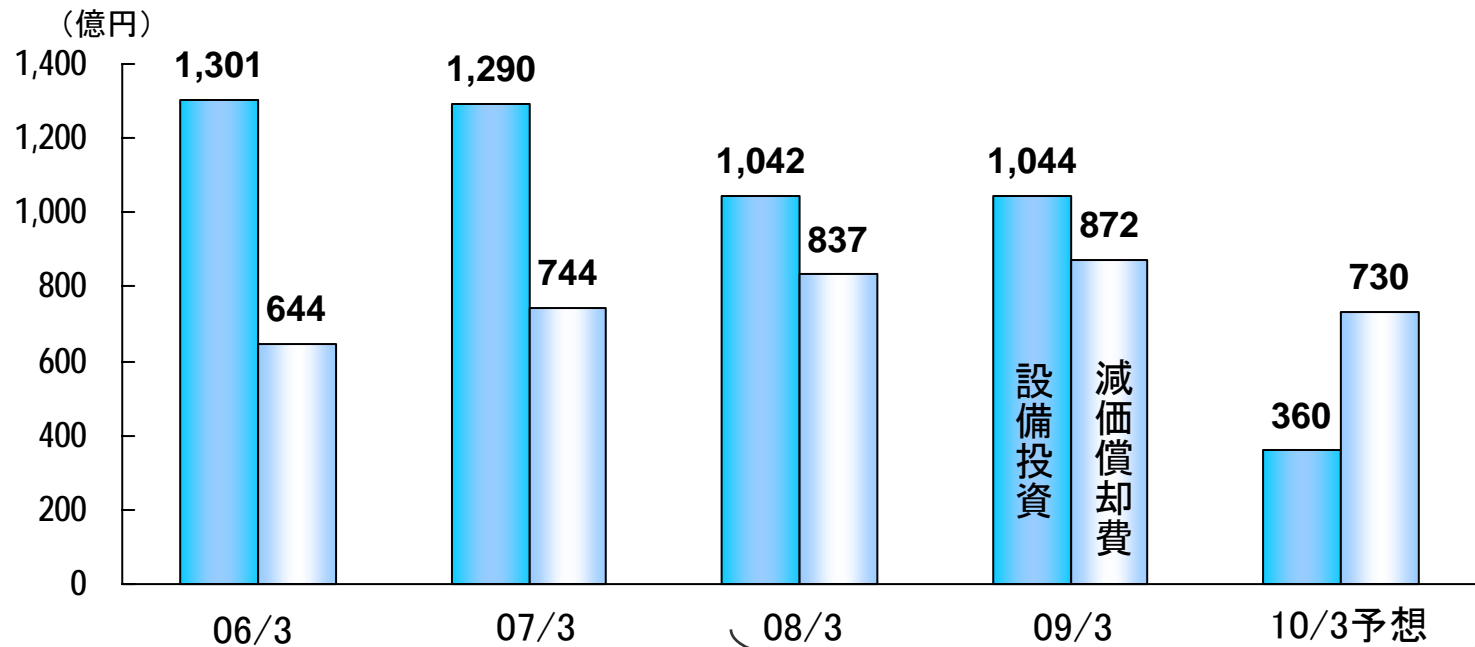
経常利益の増減要因

2010年3月期 通期予想

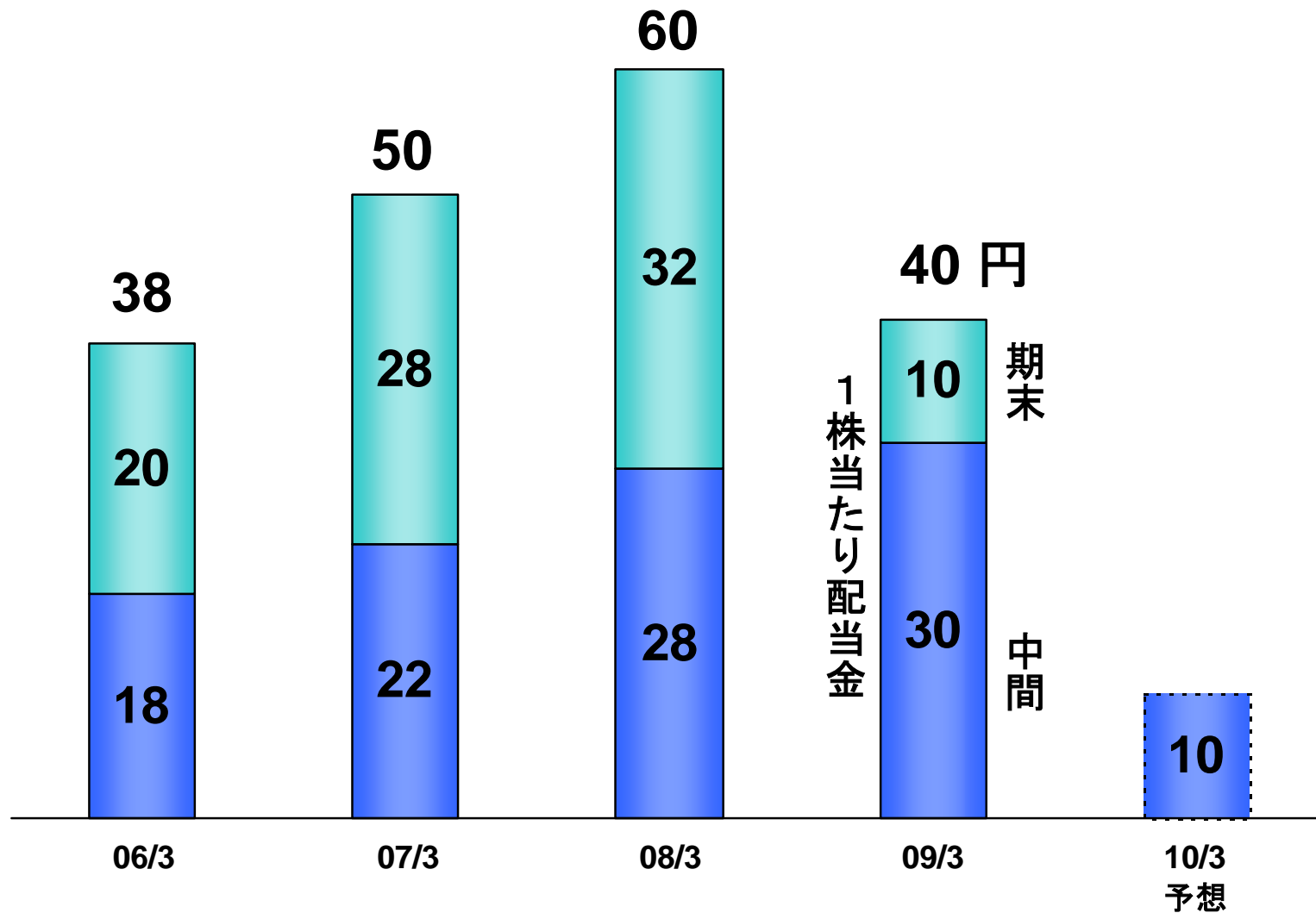
(09/3期と10/3期の比較)



設備投資・減価償却費



1株当たり配当金



2010年3月期末配当金は
未定です

将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみ全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。

実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。